

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 6月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 11 号 2014 年 6 月 10 日

6 月例会は 6 月 18 日(水)午後 7 時～9 時

[ひきこもり研究会：6 月 19 日(木)午後 7 時～8 時 45 分 飯塚市民交流プラザ]
受付(独楽研究会)は視聴覚教室(4 号館 1 階)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後 7 時迄視聴覚教室に待機してください。

市民遺産研究会(4401 教室):

- ・現存する炭鉱遺産をピックアップ、地図の中に落として図を作成。
- ・これらに関連する地域の文化、自然、歴史を入れ込む。
- ・全体の方向性を絞る(エリア別、調査項目別など)

独楽研究会(4103 教室 視聴覚教室):

- ・大名独楽を皆さんで回してそのデータを取る
- ・回し方の違いによって同じ独楽で回転時間がどのようになるか
- ・歳差運動(独楽のふらつき)がどの時点で起きるのか。

ひきこもり研究会(6 月 19 日 市民交流プラザ):

～他の研究会の皆さんの視聴参加大歓迎です～

・ドキュメンタリー「ひきこもりから一歩」視聴のあと、解説。会長野田が京都を中心に活動していた 2003 年、京都テレビが一年間撮影し定期番組で何度か紹介と併せて 30 分の作品を制作しました。当時関西ではかなりの反応がありました。今回、九州では初めての視聴です。

なお 取材うけた若者が秋には研究会にゲストでお招きします。当時 21 才、現在 32 才です。その頃の思い そして今の思いをお話いただきます。

情報発信/データデザイン研究会(午後 5 時 3 号館 3 階 3304-B:情報工房):

- ・筑豊ゼミで使用する WordPress の学習。
- ・地域づくりセンター Web サイトの情報の整理・設計、レイアウトの作成。

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会 5月定例研究会

会長 白神 精一

炭鉱資源を活用した観光誘客戦略を考えるに当たり下記の資料を配布。

- 1)福岡県の炭鉱探訪マップおよび筑豊炭田概略図(メールより参考資料)
- 2)筑豊炭田の近代化遺産について(長弘顧問記述の資料)

すでに調査・研究、報告された資料を最新の情報を入れて復習を兼ねて読み合わせ。

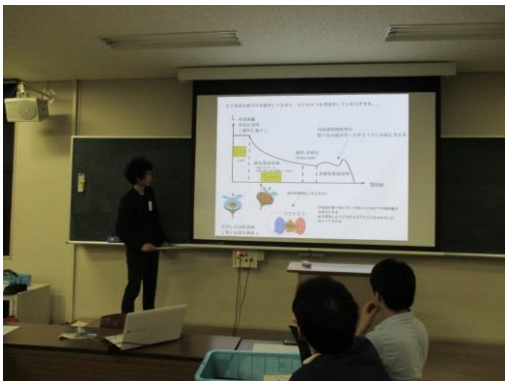
現存する遺産群の所在地や保存状況などを資料にて確認した。直方市石炭記念館で企画展「炭鉱の遺構」写真展 が開催されているので参考にして取り組みをしていくことにする。

今後の取り組みのとして、今秋を目途に研究内容の経過をパネル、資料などの展示を多くの市民に展示場、ギャラリーなどを利用してみてもらうことを目標として点と線で結べるエリア内に遠賀川や街道に関する内容で調査する。

独楽研究会 5月定例研究会

会長 笹原 泰史

新メンバーの安永昌司氏が「独楽による物理的考察」と題して物理学の観点より独楽の話をしました(左写真)。近畿大学の松崎先生より情報処理学会で「情報技術で独楽の動きを読み解く」の発表内容を話して頂きました(右写真)。吉田氏(近畿大学学生)は、1秒ごと回転数の測定を取りその時の歳差運動について調べたデータを報告しました。



ひきこもり研究会

会長 野田 隆喜

5月定例研究会については、既に研究会報第10号(5月号)に報告しております。そこで、改めてひきこもり研究会への参加をお誘い致します。

辛い例会日が異なりますので、他の研究会に所属していても、余分な費用なしで参加できます。一人でも多く方に「ひきこもりの正しい理解」を目指しております。参加、あるいは「試しに」参加ご希望の方は、のだ yuru2yui2012@yahoo.co.jp にメールいただくと幸いです。

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)

会計 中村 真沙人



情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)は、近畿大学産業理工学部が、HP(ホームページ)を通じて筑豊地域の活性化を図る目的として平成 26 年に作られた組織です。

具体的な研究内容は、HP をより多くの人々に見てもらい、たくさんの人達に筑豊のいい所を知ってもらい、興味を持ってもらえるよう HP のデザイン・機能を改良していくことです。また、インターネットを利用した HP 以外の方法で情報を発信する方法も研究しており、現在は 6 人のコアメンバーにより、

HP の改良案を話し合っています。

5 月の活動内容

毎週水曜日にメンバーが集まり、HP 作成に使用するツール・プログラミング言語の候補をいくつか挙げ、それらを実際に使用し、テストプログラム(スライドショー等)をいくつか作成しながらどの言語、ツールを使用するか決定しました。

- ・使用言語 HTML5、CSS3、jQuery
- ・使用ツール BiND

年間活動の予定

- 5 月 HP デザインの決定、使用するツール等の決定や準備
- 6 月 HP の設計図、レイアウトの作成
- 8~9 月 夏休みの集中開発(参加できる人のみ)
- 9 月末 HP のアップロード予定
- 3 月末まで HP の運用・保守



筑豊ゼミに参加した理由

安永 昌司

1. はじめに

大学院を卒業し就職を機に「鞍手町」に帰郷して3年が経つ。自身の終焉の地に選んだ生まれ故郷の理解を深める為に、鞍手に関する様々な事を知ろうと努力してきたつもりだ。生活、行政、文化、自然、人々と良くも悪くも思うところは多々ある。しかし、これらを総合的に考えても、未だにこの鞍手町の普遍的な「魅力」というものが私自身で納得できていない。

鞍手町の魅力とは何なのか？他の人に鞍手町に住む事を自信を持って勧められるのか？これらの問いに対する答えを持ち得ていないのが現状である。先祖代々住み続けた鞍手を自信を持ってまずは筑豊、そして福岡、強いては日本、最終的には世界中の人々勧められるようになりたい。もしくは、そのような町にしたい。という事が私の本心であり、きっと、残された人生において自身の使命であると考えている。

その為には、鞍手を知る事はもちろん、少し視点を広げて鞍手が属する筑豊地区に関する歴史、文化等を知る必要がある。また、それらを踏まえて福岡における筑豊、鞍手の立ち位置、日本に置ける福岡、世界に置ける福岡を考え、鞍手を筑豊、福岡、日本、世界という各階層のそれぞれの視点より俯瞰し、各階層へ発信できるポイントを探し、創造するという気概である。その野望の第一歩としてまずは筑豊全体を知り鞍手へ還元するつもりで筑豊ゼミへの参加を決意した。

2. 筑豊ゼミを通じて得たい事

筑豊ゼミを通じて得たい事は鞍手町再生のヒントである。それは、筑豊地区も鞍手町といくつか相似な課題に直面しており、それらの対策を行政レベルは基より、市民レベルで鞍手町より先行して議論しているからである。失礼だが、私の筑豊地区のイメージも鞍手町と大差なく、是非筑豊に住みたいといったような魅力ある土地とは思えない。おそらく根幹にある問題は筑豊地区共通であり、それに対する答えを各自治体、強いては各自治体の垣根を越えて筑豊地区全体で見つけなければならない。ちなみに、私が抱いている筑豊地区のイメージは「かつての～」という形容詞に表される衰退したというネガティブなものである。石炭の産出地として発展していたが、石油へのエネルギー転換に順応できなかった土地の末路が筑豊地区の現状の一因となったと認識している。鞍手もそうだがこの「かつての～」というイメージを払拭するための方法を考えたい。

3. 土地の「魅力」とは

各年代によってその土地で感じる魅力は変化するだろう。各世代の価値観を想像してみると以下の様に思える。

- 10代 娯楽施設、地元の友達
- 20代 働き場所、利便性、同世代が多いか否か
- 30代 子育て環境、利便性
- 40代 税優遇
- 50代 自身の趣味が他の人と共有できる環境か否か
- 60代 孫の世代の環境、医療環境
- 70代以降 ??

全世代共通 文化施設、治安、食事処、全てを包括して他の地域に住む人に対して自慢できるところ、土地の誇り

土地の魅力を考える方法は2つある。

1つは魅力を感じさせたい世代を絞ってその価値観のあるところの魅力を徹底的に議論する。もう1つは全世代共通する魅力を考えるという事である。

4. 私が今後の筑豊地区にもとめる「魅力」

視点をまず筑豊地区から福岡県に広げて考えてみると、まず福岡県の人口は増えている(平成25年度都道府県別増加率7位)。特に福岡市の人口増加率は非常に高く、人口は150万人を突破し、政令指定都市別人口増加率としては日本第2位(1位さいたま市)である。福岡市は都会であるだけでなく田舎も隣接しており、車で30分も運転すれば自然が豊かな土地(糸島市等)に足を伸ばせる。また、行政も創業戦略特区として、ベンチャー企業への様々な税制優遇をこころみて、クリエイティブな人材の確保に力を入れている。また、日本全体を見ると、30年以内に発生確率70%の南海トラフ地震という東海から西日本沿岸地区まで大きな懸念事項を抱えていることから、その土地の企業が福岡に居を移すことも大いに考えられるし、それに伴い人口が福岡市、福岡県に流れ込む可能性も大いにある。

それらを考慮すると、まず、筑豊地区が提案する魅力とは、「人口増加が見込める福岡市やそのベッドタウンである大野城、筑紫野、新宮、福津、古賀、宗像に住む人に週末訪れたいなど思わせる魅力」と「福岡県へ進出する企業に対する筑豊の魅力」そして「筑豊地区に住む者が他の土地の人に紹介できる魅力」である。この魅力を模索する事が私のこの筑豊ゼミ1年生である私の課題なのだろうと考えている。

私は筑豊地区の「かつての」といったようなイメージを払拭し、「新たな～」といったようなイメージを、筑豊に住んでいるものはもちろん他の地域の人にも抱かせる必要があると考えている。筑豊地区は距離的観点から福岡市のベッドタウンにはなりづらいが、休日を過ごす観光地としての要素はくすぶっていると思う。炭坑等の過去の歴史は否定せず、肯定しそれらから新たな魅力を抽出できれば良いと考えている。温故知新に知新創先が私の目指すところである。

(参考)鞍手町の現状

ここでは、帰省して3年間鞍手に住んでみた私の感想を主観的に記載する。間違いも多々あると思うが主観であることを心に留めていただければ幸いである。

人口分布

鞍手町は人口約 17,000 人の町である。人口分布は図1のような構成で、特徴としては日本の平均より 50 代以降の分布が多く、働き盛り 30-40 代が極端に少なく、未来を担う 10-20 代も少ないというものである。これは、鞍手町の財源の大部分を占める町民税に大きく関わってくる。町税には均等割と所得割があり、後者が個人の所得に依存してくる財源であり、収入が減っていく 50 代以降が多い人口分布だと減収しか見込めない。今後 20 年後には税金がどうなるか試算はまだ行っていないが高齢化にともなう人口減により確実に減収すると思えて仕方が無い。

生活

生活としては、総合病院1件、診療所数件、スーパーマーケット2軒、農産物直売所1軒、ホームセンター2軒、ドラッグストア1軒、100 円 shop1軒、飲食店 10~30 軒程度？、コンビニ 7 軒、娯楽施設数件である。公共の交通機関はバスと JR があるが移動は自家用車が主である。

印象としては、生活する上で必要最低限のものしかないというものである。本屋が無いという現状を考えると、新たに知識を得たいという需要が小さく、現状の生活を維持できれば良いという生活者の意識が反映されているのではないだろうか。

産業

農業、自営業、大手メーカー生産工場勤務、販売業等、**wikipedia** によると **40%** の人が鞍手で働いているとの事だが、真実か否かわからない。私の周りの統計をとると自営業と農業が多い。

特産品

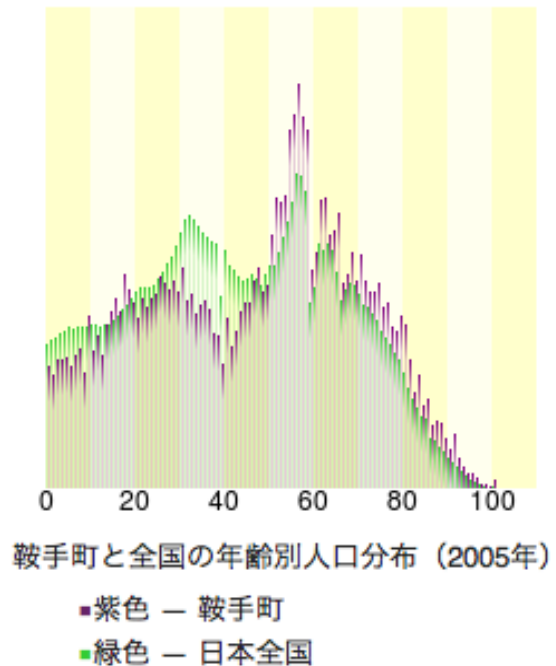
8月から9月にかけて巨峰が最盛となる。巨峰マップのような、各巨峰園が記載されたパンフレットが夏には発行される。巨峰は非常甘く、みずみずしく大変美味しい。私の夏の楽しみである。味宝卵や貴黄卵などの養鶏も盛ん。

教育

特に特色ある教育が行われている風でもなく、著名な方を招いての講演会が行われているとも聞かない。

行政

鞍手 IC の開発は非常に良い。筑豊の集客力が上がれば、高速を使って来る人が鞍手 IC で降りる事になる。その際に鞍手のビジネスチャンスがある。また、物流の利便性が向上している。



情報交差点

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。予告や結果報告等、皆様からの情報を待っています。

送付先 e-mail : chair@chikuzemi.com (運営委員長) : sec@chikuzemi.com (事務局長)

URL: <http://www.chikuzemi.com/> (筑豊ゼミ)

<http://www.chikuhou-jugaku.org/> (NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター)

pdd 研を覗いてみませんか！

効果的な情報発信のための HP 設計(ホームページのデザイン)を研究している pdd 研(情報発信/データデザイン研究会)では、毎週水曜日午後 5 時～(近大産理工 3 号館 3 階 3304-B: 情報工房にて)活動しています(本研究会報告 3 ページ参照)。

筑豊地域づくりセンターや筑豊ゼミの HP に要望のある方、HP デザインに興味のある方、覗いてみませんか。事前に問い合わせしてから、お出かけ下さい。

pdd 研 URL: <http://www.chikuzemi.com/pdd/>

お問い合わせ先: chikuzemi.pdd@gmail.com

『線面器展』 飯塚藝術文化新聞創刊10周年事業

嘉飯地域に芽吹いた若いアーティスト 8 人の作品展

6月12日(木) ~ 17日(火) 10:00 ~ 18:30(最終日 17:30)

第一会場: ギャラリー 紅椿 第二会場: アートスペース Key

線[書道] 重藤あやめ 宮崎工枝

面[写真] 小林ゆう子 櫻木雅美 面[絵画] 伊藤 充

器[陶芸] 内野鉄郎 器[ギター制作] 木村信也 器[ガラス工芸] 齊藤達也

主催 飯塚藝術文化新聞 お問い合わせ 0948-21-4580(津田勝巳まで)

発行: NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第 27 期筑豊ゼミ

責任者: 第 27 期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者: 第 27 期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所: 〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第 27 期筑豊ゼミ

連絡先: 090-9485-5985 (運営委員長 菊川) 090-8624-2886 (事務局長 主税)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)